

基本コンセプト

宮城野原にひろがる創造・交流ノハラ

1 のびのびと広がる創造と交流

- 宮城野原の地を、あらゆる人に開かれた創造の原野「創造・交流ノハラ」として捉え、県民の創造・交流がのびのびと広がっていくような環境・建築を創造します。

2 立体的に広がる交流ノハラ

- 大屋根下の吹き抜け空間に、建物全体に広がる「交流ノハラ」をつくり、各機能の賑わいや活動が表出する場をつくります。
- 丘陵状にセットバックするシンプルな3枚の水平な床で構成することで、来館者の見る・見られる関係を作り、施設全体が交流や発見にあふれる空間とします。

3 宮城野原に浮遊する一枚の伸びやかなヤネ

- 県民の様々な活動が生まれる宮城野原に、一枚の伸びやかな大屋根をかけることで、建築を構成します。
- 広々とした野原を背景として、県民がのびのびと創造活動を行い、全ての活動・機能をシンプルな大屋根が包含するイメージです。



外観イメージ(西面)

敷地概要

- ・計画地 仙台市宮城野区宮城野二丁目301-1の一部
- ・敷地面積 53,169.13 m<sup>2</sup>
- ・区域区分 都市計画区域 市街化区域
- ・用途地域 近隣商業地域
- ・建蔽率の限度 80%
- ・容積率の限度 300%
- ・防火地域 準防火地域
- ・高さの制限 第4種高度地区



配置図

施設構成・概要

- ① 大ホール(1~4階)
  - ・客席：約2,200席(1・2階 1,300席 3階 400席 4階 500席)、3層4階
  - ・舞台：四面舞台(主舞台開口約18m×奥行18m)
  - ・舞台機構：昇降式オーケストラピット、音響反射板、吊物・照明バトン
- ② スタジオシアター(1~2階)
  - ・客席：最大約600席(スタンディング時 最大約1,600人)
  - ・舞台：主舞台開口約18m×奥行14m
  - ・舞台機構：昇降式客席迫り、吊物・照明バトン
  - ※ 1階席は可動席を導入、平土間としても利用が可能
  - ※ 移動間仕切りにより、ギャラリー及び屋外展示スペースと一体利用が可能
- ③ スタジオ(1階)
  - ・客席：最大約300席
  - ・面積：約460m<sup>2</sup>(大ホール主舞台と同程度)
  - ・天井高：有効約7m
- ④ NPOエリア(1階)
  - ・面積：約600m<sup>2</sup>
  - ・構成：交流サロン、NPOルーム、相談室、作業室 ※従前の機能を踏襲
- ⑤ ギャラリー(1、2階)
  - ・面積：約1,000m<sup>2</sup>(1階 約600m<sup>2</sup>、2階 約400m<sup>2</sup>)
  - ・天井高：1階 4m、2階 3.5m
  - ※ 移動間仕切りにより1、2階とも2分割での利用が可能
- ⑥ その他機能(カフェ、アトライブラリー、練習室、アトリエ、会議室、和室、駐車場)

建物概要

・延床面積	28,314.83 m <sup>2</sup>	・構造	SRC、RC、S 造
・建築面積	14,389.53 m <sup>2</sup>	・基礎	基礎免震構造
・建蔽率	27.06%	・階数	地下1階、地上5階建て
・容積率	52.36%	・高さ	36.30m

防災計画

- ・人命の安全確保や施設機能の維持を図るため、十分な耐震性を確保するとともに、基礎部分に免震層を設ける基礎免震構造を採用します。
- ・災害停電時における電源供給を目的とした非常用発電機を設置し、備蓄燃料により72時間の継続運転を可能とします。
- ・災害断水時にも水道水、井水が利用できるよう、受水槽(水道水・手洗い用)や井水槽(洗浄水)を計画します。
- ・災害発生時において来館者や職員の避難等に必要な物資を保管します。
- ・様々な災害において、来館者がより安全に避難できるよう、全館避難安全検証法に基づくシミュレーション等を行います。

環境配慮計画

- ・以下の取組等により、ZEB(※)化を目指します。
    - 外壁、屋根の高断熱化や遮熱性能のあるサッシにより建物の断熱性能を向上させ、空調負荷を抑制しエネルギー消費量を低減します。
    - LED照明を採用し、昼光センサー、人感センサーを導入することで、きめ細やかな照明制御を可能とし、照明によるエネルギー消費量を低減します。
  - ・地中熱や太陽光などの自然エネルギーを活用し、省CO2に寄与する計画とします。
- (※)Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称。  
消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物で、その達成状況に応じて4段階に定義される。

ユニバーサルデザイン計画

- ・施設内は段差を設けず、ゆとりある大きさのエレベーターを複数配置します。
- ・各階に多機能トイレや授乳室を配置するとともに、ホールには車いす利用者席を分散配置し、席を選択できるように計画します。
- ・サイン・誘導計画では、直感的に理解しやすいピクトグラムを併用し、大きさや位置、色彩などに配慮した計画とします。

その他、設計における配慮事項

<明瞭な平面計画>

建物中央に交流ひろばを計画し、それを取り囲むように各機能を配置することで分かりやすい構成とし、交流ひろばで様々な活動が行われることで、施設の一体感や賑わいを醸成します。

<女性トイレの快適性向上>

大ホールの女性トイレは十分な個室を確保する(約100室)ほか、入口から出口までの動線を一方通行とし、空き個室が一目で分かるサインを設置します。

<待機スペースの確保>

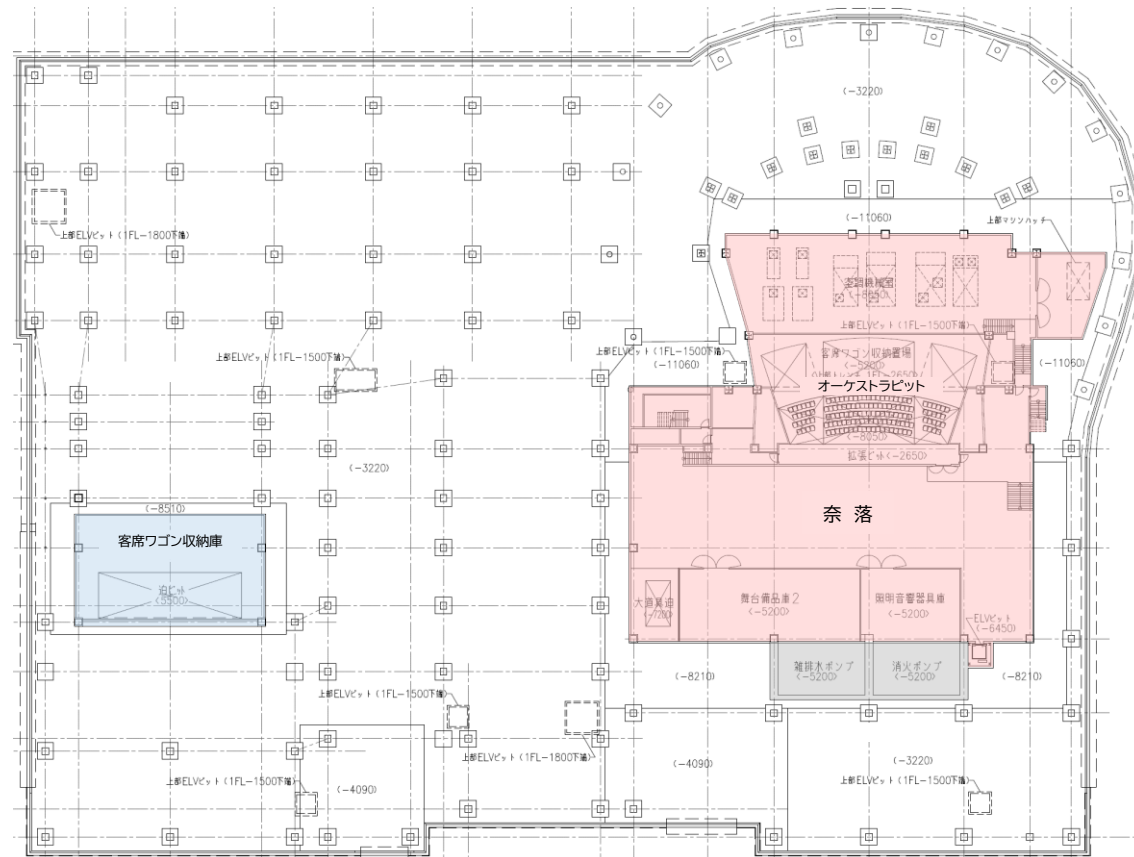
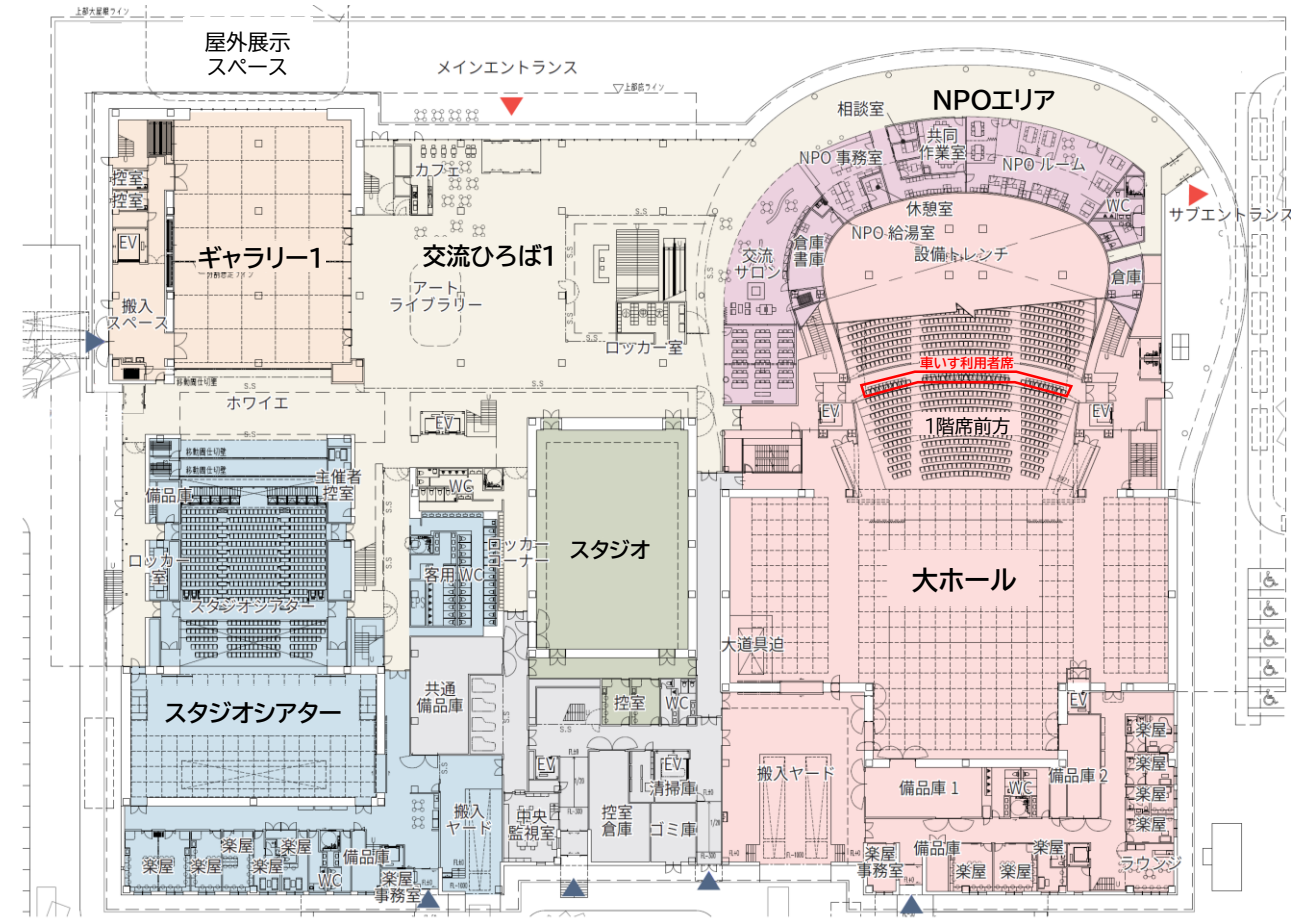
天候に左右されることなく、快適に開演を待つことができるよう、大ホールの入場口を2階、スタジオシアターの入場口を1階に分け、1、2階とも十分な広さの待機スペース(交流ひろば)を確保します。



平面計画

1階

- 建物中央に交流ひろばを計画し、それを取り囲むように各機能を配置した分かりやすい構成
- 大ホールは約2,200席。東北初となる四面舞台を計画し、オペラやバレエ、ミュージカル、ポピュラー音楽など多様な演目に対応
- スタジオシアターは演劇公演に適した形状を基本としながら、あらゆる表現芸術に対応できるよう、可動席を導入
- スタジオシアターの移動間仕切りを開放することで、ギャラリーや屋外展示スペースと一体での利用が可能
- スタジオは県内文化団体等の日常的な稽古などのほか、大ホール公演のリハーサル利用を想定し、大ホール主舞台と同程度の面積を確保
- NPOエリアは交流サロンやNPOルームなど従前の機能を踏襲し、現在と同規模の計画
- ギャラリーは現県民会館の展示室及び県美術館の県民ギャラリーを踏襲し、1階、2階合わせて約1,000㎡の面積を確保するほか、それぞれ2分割での利用が可能

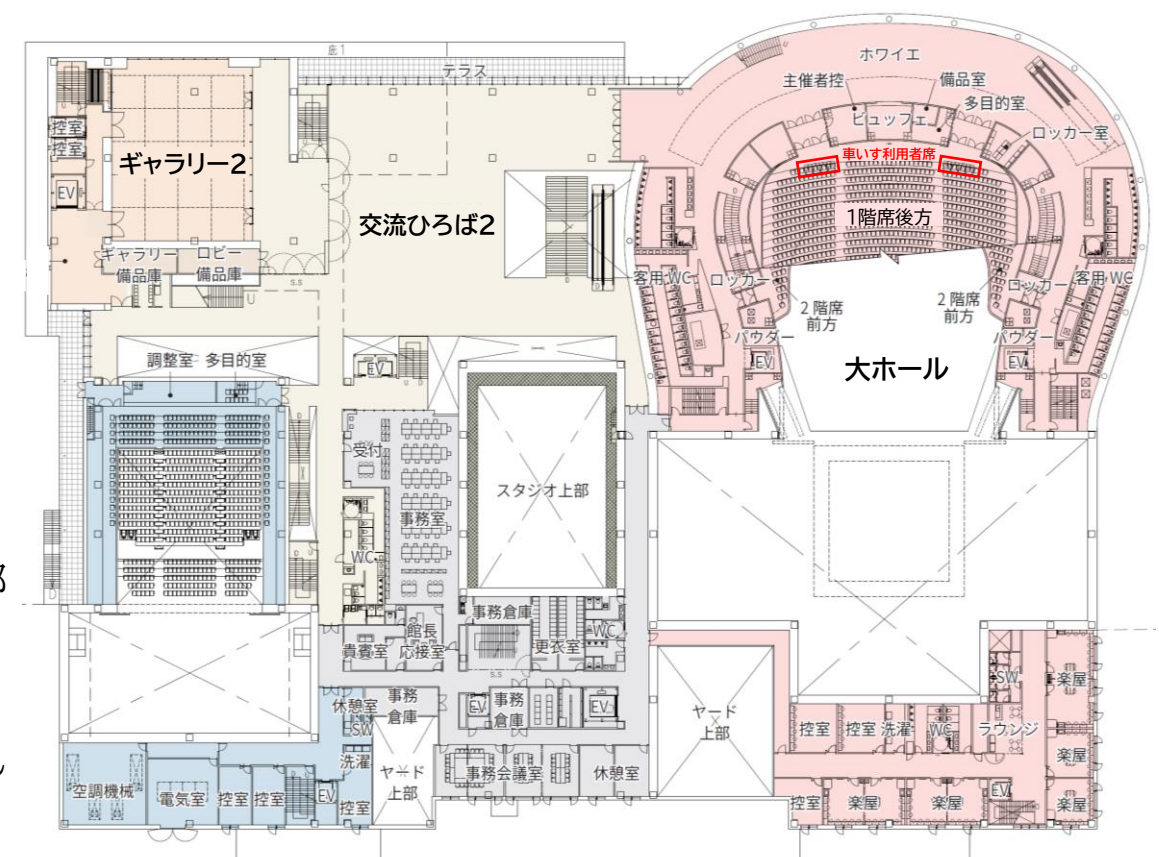


地下1階

- 基礎免震構造を採用
- 大ホールの奈落、オーケストラピット、客席ワゴン収納庫を設置
- スタジオシアターの客席ワゴン収納庫を設置

2階

- 大ホール入場口前の交流ひろば2は上部吹抜けで開放的な空間を計画し、立体的なつながりを創出
- 交流ひろば2は来館者が天候に左右されることなく快適に開演を待つことができるよう、十分な広さを確保





平面計画



3階

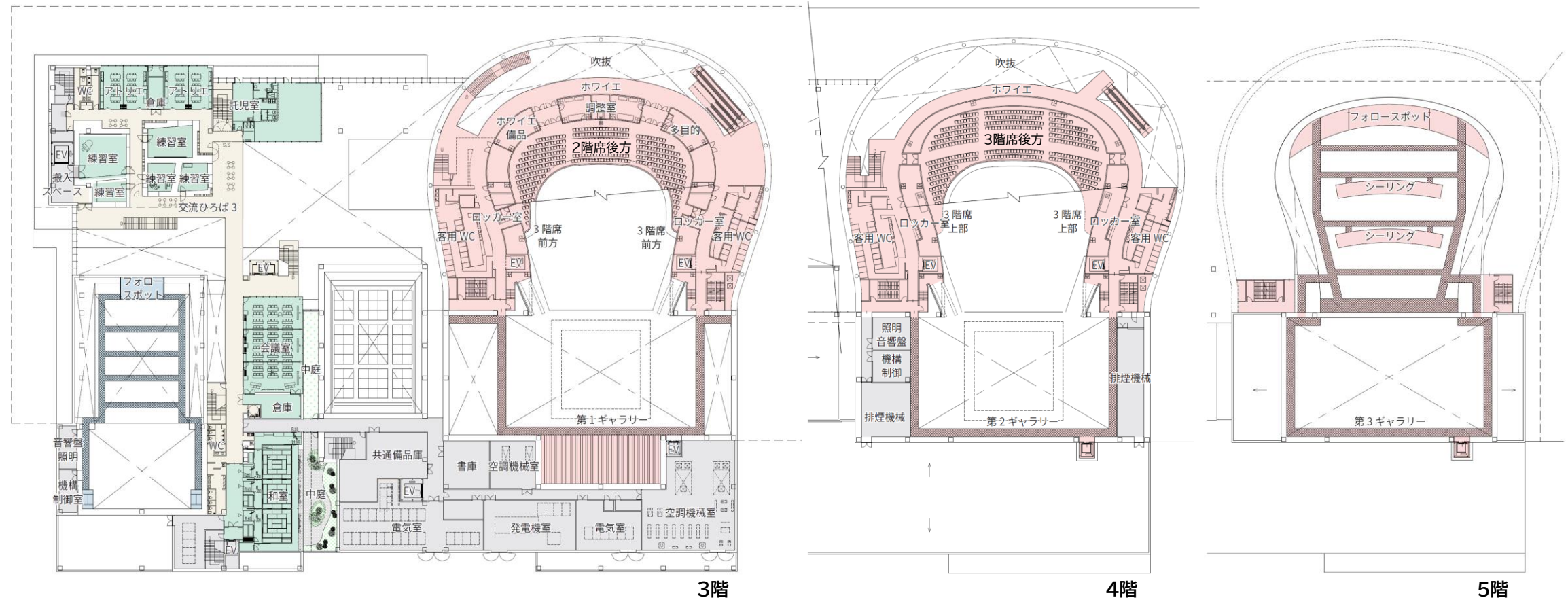
- 練習室やアトリエを一体的に配置
- 会議室は約100名で利用できるほか、3分割での小規模利用も可能
- 和室は18畳を3室連続して配置し、一体利用のほか、個別利用も可能

4階

- 大ホール3階席(最上階席)、ホワイエ、トイレを配置

5階

- 大ホールの技術関係諸室を配置



大ホール

- 客席は幅、列の間隔ともゆとりを持たせた快適なサイズとし、千鳥配置にするなど各席からの視認性を確保
- 車いす利用者席を複数個所に設置
- 親子での鑑賞等に対応できる多目的室を2室設置
- 幕間にゆったりくつろげる広いホワイエを各階に確保
- ビュッフェを設置し、クロークの代わりに各フロアにコインロッカーを設置
- トイレは各階ホワイエの両サイドに均等に配置
- 女性用トイレは十分な数の個室を確保し、独立したパウダールームも設置

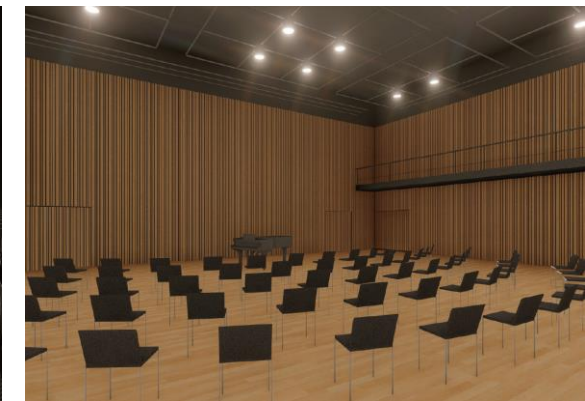
内観透視図



大ホール



スタジオシアター



スタジオ



NPOエリア(交流サロン)



ギャラリー1



交流ひろば2

凡例 ■ 大ホール ■ スタジオシアター ■ スタジオ ■ ギャラリー ■ NPOエリア ■ 練習・会議室等 ■ 事務エリア ■ 共用部